

元戦車中隊長の模型部屋

第10回

皆さんあけましておめでとうございます。クリスマスプレゼントにお年玉と、年末年始は良い子には嬉しい事が続きますね。私だって良いパパしていたのですが、プレゼントなんかありませんよ・・・（遠い目）さて、私もこの休暇間は模型に勤しんでいました。娘たちの波状攻撃による幾多の妨害にも負けず、睡眠時間を削って（笑）今年も沢山の模型を紹介できたらと思いますのでよろしくお願いします。さて、令和2年最初の模型は大日本帝国陸軍の・・・



97式中戦車 です。

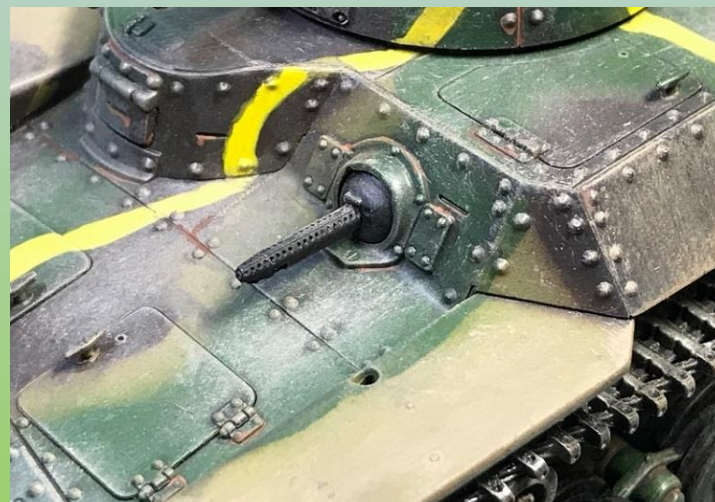
キットはドラゴンのキットです。募集班長の模型部屋（第7回）で紹介したタミヤの97式中戦車が発売されてから約40年近くが経過しているのですから、そのディテールの素晴らしさは最高です！転輪の刻印やボルト一つ一つが素晴らしい造形です。ただ、当然素晴らしいキットはそれなりの価格がするわけで・・・8000円近くのキットは我が家の防衛費を圧迫しました。この予算を通すため、娘達にその倍額の洋服を購入してあげなければならないので、結果的に楽しいショッピングデートになりました（なんじゃそれ！）



本キットの履帯は分割式で、一枚一枚組み立てなくとも撓み（たわみ）の表現が出来た状態の履帯を繋げるので、苦労せずともご覧のと通りの重量感ある履帯が表現できます。



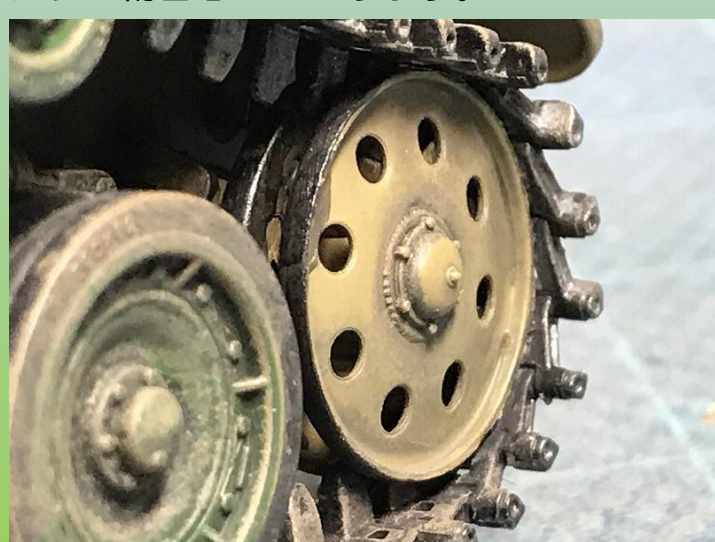
塗装はGS | クレオスの日本戦車色セットを使用してます。やはり調色しなくともその色が表現出来るのは良いですね。大戦初期の日本陸軍戦車に見られた黄帯は同社のキャラクターイエローを筆で重ね塗りしてます。暗い色の上に明るい色を塗装するのはどうしても下の色が透けてしまうので、根気よく重ねるのが大切です。実車でもそうだったのでは？と都合よく解釈し、多少の透けはそのままとしました。



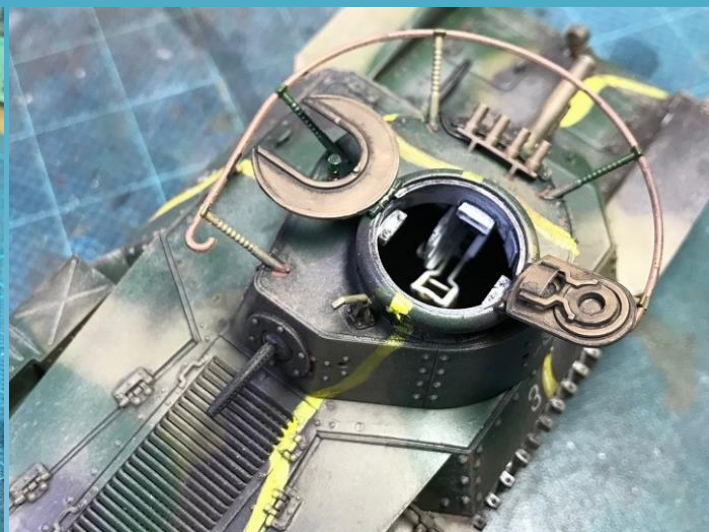
左：発煙弾発射機にはコードを鉛線を使用して表現しました。右：前方銃周辺のサビや泥が流れた状態ですが、どうでしょう？先述の黄帯の手書き感もわかります（笑）



本キットのガラス部には、透明パーツが使用されています。左上：前照灯にはマスキングして、銀⇒車体色の順で塗装 右上：車長用潜望鏡は接眼部をマスキングし、車内色を塗装 左下：砲塔信号灯は点灯部をマスキングし銀⇒車体色で塗装 右下：停止灯、信号灯は点灯部をマスキングし、車体色を塗装し、その後クリアー色を塗装しました。透明部品でグッと精密感が上がります。



履帯接地部や起動輪、誘導輪の摩耗部は鉛筆の粉を擦りつけて金属感アップ



右上の様に、車長ハッチに入るといきなり砲尾部があるので乗下車しにくかったと思います。でも、戦車兵フィギュアを乗せると・・・うーん、精悍な顔つきに戦車も強そうに見えます。



左：マフラー部のアップ、パステルコンテの茶色で錆を表現 右：車体前部の銘板はエッチングパーツで、黒く塗った後にシンナーを含ませた綿棒で凸部の塗料をはがします。



突撃イ！



日本兵フィギュアと並べ
戦争映画を彷彿とさせます。
また娘達に笑われてます…
では今回はここまで。また
次回、お会いしましょう。